

東京の労働力(平成28年平均結果)

●労働力調査結果と東京都のまとめが公表

総務省では、国民の就業状況や失業率などを把握するための基礎資料として、毎月「労働力調査」(総務省統計局所管)を行っています。その東京都分について、平成28年の集計結果が公表されましたので、景気動向のヒントとして、調査の主な結果についてみていきます。

●労働力人口は0.9%増の774万1,000人

今回、東京都がまとめた集計結果によると、平成28年平均の労働力人口は、774万1,000人で、前年に比べ6万6,000人(0.9%)の増加となりました。

男女別にみると、男性は441万7,000人で前年比1万6,000人(0.4%)増、女性は332万5,000人で前年比5万1,000人(1.6%)増と、いずれも増加しました。

一方、全国の労働力人口は6,648万人で、前年に比べ50万人(0.8%)の増加となりました。全国の労働力人口に占める東京都の割合は11.6%で、男女別にみると、男性は11.7%、女性は11.5%です。

また、年齢階級別の労働人口を男女別にみると、前年に比べ男性は「35～44歳」、「55～64歳」、「65歳以上」で減少し、他の年齢階級で増加。女性は「35～44歳」、「65歳以上」で減少し、他の年齢階級で増加しました。男女の構成比をみると、男女ともに「35～44歳」が最も高く、男性は24.6%、女性は23.3%を占めています。

●就業者数は1.2%増の749万2,000人

就業者数は749万2,000人で、前年に比べ9万2,000人(1.2%)増加しました。

男女別にみると、男性は427万6,000人で、4万4,000人(1.0%)増、女性は321万6,000人で、4万8,000人(1.5%)増と、いずれも増加しました。

一方、全国の就業者数は6,440万人で、前年比64万人

(1.0%)増加しました。全国の就業者数に占める東京都の割合は11.6%で、男女別では男性11.8%、女性11.5%となりました。

年齢階級別の就業者数を男女別にみると、前年に比べ男性は「35～44歳」、「55～64歳」、「65歳以上」で減少し、他の年齢階級で増加しました。女性は「35～44歳」、「65歳以上」で減少し、他の年齢階級で増加。

男女の構成比をみると、男女ともに「35～44歳」が最も高く、男性は24.8%、女性は23.4%を占めました。

主な産業別就業者数をみると、前年に比べ「学術研究、専門・技術サービス業」(5万3,000人)、「金融業、保険業」(4万9,000人)など8業種で増加した一方、「建設業」(5万6,000人)、「卸売業、小売業」(2万6,000人)など5業種で減少しました。

●東京都の完全失業率は3.2%

完全失業者数は25万人で、前年に比べ2万5,000人(9.1%)減少しました。男女別にみると、男性は14万1,000人で、2万8,000人(16.6%)の減少、女性は10万9,000人で、3,000人(2.8%)の増加となりました。

全国の完全失業者数は208万人で、前年に比べ14万人(6.3%)の減少です。

全国の完全失業者数に占める東京都の割合は12.0%で、男女別では男性11.2%、女性13.3%となりました。

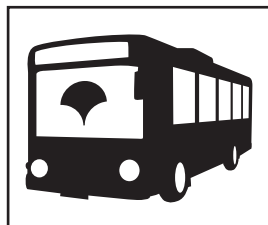
完全失業率は3.2%で、前年に比べ0.4ポイント低下しました。男女別では、男性は3.2%(0.6ポイント低下)、女性は3.3%(0.1ポイント上昇)となりました。

さらに詳しい資料については、東京都ホームページの「東京都の統計」(<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/roudou/rd-index.htm>)から「東京の労働力」(労働力調査結果)の全文がご覧になれます。また、資料に関するお問い合わせは、総務局統計部社会統計課(03-5388-2555)までお願いします。

COFFEE BREAK

燃料電池バスが運行中

東京都交通局は3月21日から、燃料電池バスの営業運転を運行しています。燃料電池バスは、車に搭載した高圧タンクから、燃料となる水素を燃料電池に供給し、空気中の酸素と化学反応させてモーターを動かす電気をつくり出します。今回、導入されたのは市販の燃料電池バス2台。市販車では日本



初の路線バスとなります。東京・丸の内～お台場の巡回ルートを走り、主な停留所は東京駅丸の内南口、有楽町駅、銀座四丁目、築地三丁目、勝どき駅、有明テニスの森、東京ビッグサイト(都05系統)。交通局は今後も導入を順次拡大するなど、水素社会の実現に向け貢献していくそうです。